

出身国・地域を日本から見る(グローバル人材基礎演習)

科目名	出身国・地域を日本から見る(中級共修ゼミ) (グローバル人材基礎演習)
担当教員	三島 敦子
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・金曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C307
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	外国人留学生対象日本語プログラムの授業との合同開講。授業は日本語で行う。留学生の出身国・地域の大学に日本人学生が留学する場合や、日本人がそこで働く場合の諸事情について、日本人学生と留学生が協力して調査し、発表したり、グループ討論したりする。そして、日本人学生も留学生も、自文化と異文化の相違点の分析を通して多様な考え方に触れ、自文化を再認識したり、自分と異なる考え方を許容したりする姿勢を養う。日本人学生には、留学生にわかりやすい日本語で話すことが求められる。
学習の到達目標	<p>【日本人学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の出身国、出身地域の社会事情、生活文化、価値観に関する理解を深める。 ・留学生と協力し、調査、発表を行い、それを通して、外国人とやりとりする際の、日本語でのコミュニケーション能力を高める。 <p>【留学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出身国、出身地域の社会事情、生活文化、価値観について日本語で説明できる。 ・ほかの留学生の出身国、出身地域の社会事情、生活文化、価値観について理解を深める。 ・日本人と協力し、調査、発表を行い、それを通して、日本語でのコミュニケーション能力を高める。
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 オリエンテーション、グループインタビュー</p> <p>第2回 町の紹介 準備</p> <p>第3回 町の紹介</p> <p>第4回 留学に関するポスター発表準備</p> <p>第5回 留学に関するポスター発表準備</p> <p>第6回 留学に関するポスター発表 1</p> <p>第7回 留学に関するポスター発表 2</p> <p>第8回 グループ討論準備</p> <p>第9回 グループ討論 1</p> <p>第10回 グループ討論 2</p> <p>第11回 グループ討論 3</p> <p>第12回 日本人が海外で働くときの課題:発表準備</p> <p>第13回 日本人が海外で働くときの課題:発表準備</p> <p>第14回 日本人が海外で働くときの課題:発表 1</p> <p>第15回 日本人が海外で働くときの課題:発表 2</p>
成績評価方法	<p>出席、授業参加度: 20%</p> <p>課題達成度(グループ活動、発表、レポートなど): 80%</p> <p>※課題ごとにレポートを課す。提出期限を守ること。</p>
教科書および参考書	
授業時間外学習	グループでの発表準備、レポート作成のための発表のふりかえりが、授業時間内で終わらない場合は、授業時間外に行うこと。発表準備とレポート作成のため、毎回ではないが、最大 3~4 時間程度の時間が必要な場合がある。
その他	留学生:東北大学日本語コースのレベル4 (日本語能力試験N3 合格レベル、中級前半修了程度)以上であれば、登録可

マルチメディアを活用した日本語(日本社会・文化A)

科目名	マルチメディアを活用した日本語(中級共修ゼミ) (日本社会・文化A)
担当教員	林 雅子
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・木曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A303
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	<p>この授業では、留学生の言語と対照しつつ日本語を外から捉え、「マルチメディア」等を活用して分析する力と、日本語を分かりやすく教える力を身につけ、クラス全体で日本語の理解を深めることを目的とする。</p> <p>この二つの言葉はどう違うのか、どちらがよく使われているのか、頭の中で必死に考えても、辞書や文献で調べても良く分からない、そのような時「コーパス(corpus)」が役に立つ。「コーパス」とは言語研究に使用可能な電子化された言語テキストの集合体のことで調べたい言葉の用例を瞬時に、時には大量に一覧形式で得ることが可能である。</p> <p>ただ、言語テキストだけの「モノメディア・コーパス」ではその言葉がどのような場面でのどのように使われているのか、話し手がどのような表情と口調でその言葉を使ったのか良く分からないこともある。そのような時に、話し手の発話を文字化したテキストとその発話場面の映像とを同期させた「マルチメディア・コーパス」を活用すれば言葉をビジュアル的に理解することが可能となる</p> <p>また、言語の教育においては、文字だけの「モノメディア」よりも、ドラマ・映画・アニメ・マンガのような動画・画像・音声等の「マルチメディア」を活用する方が、より学習者の理解が容易な場合が多くある。そこで、この授業では日本人学生と留学生協働で以下の3つを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マルチメディア・コーパス」を作成して言葉を分析し、それを基に「マルチメディア教材」を作成して教育に応用する。 ・「モノメディア・コーパス」と、ドラマ・映画等の「マルチメディア」を活用して分析した結果をグループ発表する。 ・作成した「マルチメディア教材」を活用して学生が教壇に立ってクラスメイト(仲間=ピア)に教え、相互に教え合うことでクラス全体として日本語についての理解を深める「ピア・ティーチング」をする。
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「マルチメディア教材」を作成して、深い知識を基に教壇で仲間(ピア)に教え、相互に教え合う「ピア・ティーチング」ができる 2) 他言語と対照し「マルチメディア」を活用して言語分析ができる 3) 将来、海外留学や国際的な活動をする時に備えて、多様な言語・文化・社会的背景を持つ留学生と接することで、日本語だけでなく他の言語への深い関心・理解と尊重する態度を身につける
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 留学生の国の言語と対照しつつ協働での日本語分析</p> <p>第3回 辞書・文献等「モノメディア」を活用した日本語分析</p> <p>第4-5回 分析結果のグループ発表</p> <p>第6-7回 「マルチメディア・コーパス」の作成</p> <p>第8回 画像・動画等「マルチメディア」を活用した日本語分析</p> <p>第9-10回 分析結果のグループ発表</p> <p>第11回 「マルチメディア教材」作成と教案作成</p> <p>第12-14回 実習「ピア・ティーチング」</p> <p>第15回 リフレクション</p>
成績評価方法	発表(30%)、ピア・ティーチング(30%)、レポート・教材・課題提出(40%)
教科書および参考書	マルチメディア・コーパス言語学 石井正彦・孫栄? 大阪大学出版会 2013 参考書
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表等の課題のために授業時間外学習が必要な場合がある。 ・課題についてはオフィスアワーに相談に応じる。(川北合同棟 519) ・学習支援センターのライティングサポートを受けることを推奨している。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は日本人学生と留学生協働の「国際共修ゼミ」である。 ・授業は川内北キャンパス講義棟で実施する。 ・「TGLプログラム」ポイント対象科目として申請中である。 ・ここでの「マルチメディア」とは、文字だけの「モノメディア」に対して画像・動画・音声等を指し、ドラマ・映画だけでなくマンガ・アニメ・ニュース・ドキュメンタリー・音楽や自作動画等も対象とする。 ・文系・理系を問わず、どの分野の学生も歓迎する。

日本社会・文化A(2)

科目名	留学生と日本人学生の協働プロジェクト2(中級共修ゼミ) (日本社会・文化A)
担当教員	高橋 美能
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・水曜日・2講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A402
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	<p>本コースの目的は、コミュニケーション能力の育成、積極性や国際感覚を身に付けることにある。留学生と日本人学生が協働プロジェクトを通じて他者と対話しながら、1つの目標に向かって共にプロジェクトに取り組むために、どのようなスキルが必要であるのかについて考え、体験しながら学ぶ。教室の使用言語は、基本的に日本語とするが、英語の使用も認め、グループのメンバーが協力しながら、互いに言語の壁を乗り越えていけるよう工夫する。</p> <p>本コースでは、グループで宮城県美術館や仙台市博物館を見学する。学芸員の説明を聞きながら、各自印象に残った展示物についてメモを取る。その後の授業では、メモを基にグループのメンバーと意見交換しながら、互いに共通点・相違点について話し合う。最後に、グループで1つのプレゼンテーションにまとめて発表する。</p> <p>The aim of this course is to raise communication skills, actively participate in the class, and gain international awareness. You will learn through experiencing a collaborative project with international and Japanese students under the same goal. We will communicate in Japanese, but you are allowed to use English if necessary in order to overcome the language barrier</p>
学習の到達目標	<p>1. 言語・文化背景の異なる学生と協働作業を行う中で、異文化間コミュニケーション能力を高め、異文化への理解を深める。</p> <p>2. 美術館や博物館でメモした作品・展示物について、グループのメンバーに伝え、他者が選んだ作品や展示物について意見交換しながら、他者と共に1つのプレゼンテーションにまとめる力を身に付ける。</p> <p>3. 多様なバックグラウンドの他者と共に、多角的な視点で展示物をとらえ、自らの価値観や考え方の問い直しをするとともに、どのようにすれば他者と協力できるかについて体験を通して学び、課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>The goals of this course are as follows</p> <p>1. to enhance your intercultural communication skills and deepen your intercultural understanding</p> <p>2. to make a presentation through cooperating with group members from various backgrounds</p> <p>3. to gain the skills needed to analyze exhibitions from various perspectives, and express ideas in your own words</p>
授業内容・方法と進度予定	<p>授業は、プロジェクト学習を中心とする。定期的にクラス全体で進捗状況を報告する機会を持ち、クラスメートや教員からフィードバックを得ながら、メンバーと共にプロジェクトを成功に導くための方策を検討する。</p> <p>全15回の授業は以下のように進める予定であるが、参加者数や参加者の希望等により、変更の可能性あり。</p> <p>1 回目の授業 : コースの説明、自己紹介 2 回目 - 5 回目の授業 : 美術館訪問 6 回目の授業 : クラス内での個人発表 7 回目 - 9 回目の授業 : 博物館訪問 10 回目の授業 : クラス内での個人発表 11 回目 - 13 回目の授業 : グループ活動 14 回目 - 15 回目の授業 : 発表、振り返り</p> <p>This course is based on a project. You will work individually and in groups, and share the outcome in the class through a presentation. You will receive feedback from classmates and the instructor, and make the presentation with your group members in order to successfully complete the project</p>
成績評価方法	<p>プロジェクトへの貢献度・出席 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%) Contribution to the project and attendance (40%), presentation (30%), report (30%)</p>
教科書および参考書	
授業時間外学習	
その他	

日本社会・文化A(3)

科目名	映像に見る日本語と日本文化(中上級共修ゼミ) (日本社会・文化A)
担当教員	中村 渉
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・4講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C104
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	<p>1. 日本映画を(出来る限り)年代別に 数本見る。 2. 映画の形式、内容、解釈について 議論 する。 3. 映画の理解に必要な日本文化・社会システムの基礎的知識を説明する。</p> <p>1. Watch several Japanese movies from 1950's through 2000's. 2. Discuss the form, content, and/or interpretation of the movies. 3. Explain those aspects of Japanese culture and social system that are required to understand the movies.</p>
学習の到達目標	<p>1. 日本語を母語としない留学生が日本映画を見て理解する際に必要な文化・社会システムの基礎的知識を学ぶ。 2. 日本語を母語としない留学生が日本文化・社会システムのどんな点が難しいと思うのかを知り、説明できるようになる。</p> <p>1. Learn the basic knowledge of Japanese culture and social system that international students have to know in order to understand Japanese movies. 2. Learn those parts of Japanese culture and social system that international students have trouble in understanding and learn how to explain them to international students.</p>
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回 イントロと映画の選定 (introduction and selection of Japanese movies to watch in class) 第2回 1本目の映画 (1 st movie) 第3回 1本目の映画 (1 st movie) , 議論 (Discussion of the 1 st movie) 第4回 議論 (Discussion of the 1st movie) , 2本目の映画 (2 nd movie) 第5回 2本目の映画 (2 nd movie) 第6回 議論 (Discussion of the 2nd movie) 第7回 3本目の映画 (3 rd movie) 第8回 3本目の映画 (3 rd movie) , 議論 (Discussion of the 3rd movie) 第9回 議論 (Discussion of the 3 rd movie) 4本目の映画 第10回 4本目の映画 (4 th Movie) 第11回 議論 (Discussion of the 4th movie) 5本目の映画 第12回 5本目の映画 (5 th Movie) 第13回 議論 (Discussion of the 5 th movie) 第14回 予備 第15回 まとめ (summary) ＊スケジュールは変更されることがあります。</p>
成績評価方法	<p>出席 (attendance) (10 %) , 議論への参加 (Participation in class room discussion) (30%) , 何本かのエッセイ (Several short essays) (60%)</p>
教科書および参考書	
授業時間外学習	<p>授業で見る映画に現れる日本の文化・社会システムについて予習を行うことを求めます。 Students are required to research those aspects of Japanese culture and social system that are relevant to the Japanese movies before watching the movies in</p>
その他	

日本社会・文化A(4)

科目名	歌に学ぶ日本語の言葉と心（日本社会・文化A）
担当教員	上原 聡
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・5講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A307
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	日本人学生と外国人留学生が、日本の歌を題材にともに日本語や日本文化について考えたり意見交換を行ったり歌ったりすることを通じて、多様な価値観や世界観があることを知るとともに、日本文化の特色や他の文化との共通性を学ぶ。
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語・日本文化を多様な視点から捉えられるようになる。 ・異なる言語・文化圏を背景とする者同士が、背後にある価値観・世界観の違いや共通性を認識し互いに配慮しつつ交流できるようになる。
授業内容・方法と進度予定	<p>ともに日本語の歌を聞きその歌詞を解釈鑑賞し、留学生の持つ質問や解釈、それへの説明・話し合いを通して、歌詞の背後にある文化や心情について検討する。ともに歌いそれを再認識・実体験する。歌は春から夏にかけての季節感のあるものを中心に唱歌・流行歌などを取り上げる。最終日には全員で歌う発表会を予定している。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 授業開始 歌の紹介(1)(2) 第3回 歌の紹介(3) 第4回 歌の紹介(4) 第5回 歌の紹介(5) 第6回 歌の紹介(6) 第7回 歌の紹介(7) 第8回 歌の紹介(8) 第9回 学生による紹介発表(1) 第10回 学生による紹介発表(2) 第11回 学生による紹介発表(3) 第12回 学生による紹介発表(4) 第13回 学生による紹介発表(5) 第14回 話し合い／発表会練習 第15回 修了発表会</p>
成績評価方法	平常点および中間・期末レポートにより評価する。平常点は出席、修了発表会を含むクラス活動への参加、課題提出等の状況によって付ける。平常点60%、中間・期末レポート40%
教科書および参考書	
授業時間外学習	前週の歌についてのコメントシートを読んで自分の意見をまとめておく。グループで自分で紹介する歌について調べ、発表資料を準備する。
その他	外国人留学生等を対象とする日本語教育プログラムのクラスと合同で行う。使用言語は日本語（留学生は東北大学の実施する日本語プレースメントテストでレベル5以上が必要）。留学生主体のゼミであるため、日本人学生の定員は10名程度とする予定。受講希望者が多い場合は、初回に行うアンケート調査への回答にもとづき受講者を選定する。歌うことが好きな学生が望ましい。

異文化理解

科目名	多文化日本を生きる(中上級共修ゼミ)
担当教員	押谷 裕子
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・木曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A402
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	<p>定住する外国 人の増加に伴い、地域コミュニティ、学校教育の現場、ビジネス場面などで言語や文化の異なる人々が直接接する機会が増えています、もとより現代は性別、年齢差、障害の有無、介護や育児責任の有無、雇用形態(有期・無期)など、集団の中に急速に多様性(ダイバーシティ)が広がっている時代です。広い意味の「多文化」とは「多様性」のことであると定義し、自身の多様なアイデンティティの統合(マイクロ)・個人間・集団間の違いの調整(マクロ)を試み、正解のない多文化共生社会における有用な個人・社会 人であることを目指します、</p> <p>As more and more people from other countries settle in Japan, our chances of interacting with people who speak different languages or are from different culturer, in our local communities, at school, and in business, are increasing. Needless to say, we are living in an age in which diversity is rapidly spreading within society , whether it be gender, age, disabilities, the existence of caring and nursing responsibilities, or type of employment (permanent or temporary) . Dfning "multiculturalism " as "diversity", we will attempt to integrate our own diverse identities (at the micro level) , as well as reconcile differences both between individuals and between societies (at the macro level), in order to become productive individuals, family members, and members of society in a multicultural symbiotic society where there are no easy answer</p>
学習の到達目標	<p>(1) 多文化共生社会 のキーとなるトピック についての基本的な知識を学ぶ。 (2) クラス活動を通じてそれらの知識が体験の一部として内在化される、 (3) 視点を変えて物事をとらえ自分の立ち位置を変える思考実験ができる 3 (4)) 活動中の自分の 感情の変化をメタ認知して言語化できる。 (5) 異なるものに対する調整力、共感力、寛 容の態度が養われる。</p> <p>(1) Acquire basic knowledge of key topics in understanding the multicultural symbiotic society (2) Internalize the above knowledge as a part of your own experience through class activities. (3) Be able to engage in thought experiments where you view matters from different perspectives and alter your position. (4) Be able to promote metacognition and verbalize how your emotions change as you participate in class activities. (5) Develop your coordination skills, your empathy skills, and an attitude of tolerance with regard to those who are different from you.</p>
授業内容・方法と進度予定	<p><基本的なクラスの進め方> アジアのどこかの場所の教室で属性の異なる受講者が日本語を共通語として活動していると仮定してみましょう。以下の手順で進む予定です。テーマについて学ぶのではなく、テーマを ネタに活動するイメージです。 教師からのタスクの提示(ブリーフィング) → ペアやグループによる活動(アクティビティ) → 受講者全体での共有(シェアリング) → 自分の変化を意識化し、文章にまとめる(モニタリング) → コメントとしてメールで提出 → コメントの共有 → 教師からのフィードバック <Procedure of the class> Imagine that the class is held in some unnamed location in Asia among participants whose common language is Japanese. The class will proceed as follows. The idea is not to learnable out each topic, but to make each topic a theme of our activities. Presentation of the task by the instructor (briefing) → Class activities in pairs or in groups (activities) → Reflect on how the activity has changed you and write it down (monitoring) → Submit your comments by e-mail → Share your comments with others → Feedback from the instructor</p> <p><内容と進度予定> (1) 日本人向けオリエンテーション(多文化クラスのルール) (2) 留学生向けオリエンテーション(多文化クラスのルール) (3) アイデンティティ (4) 個人と集団 (5) 共通語としての言語 (6) 移民・難民・在留資格 (7) (8) (9) 合宿参加(協働作業と発表) (10) 在日韓国人 (11) 労働(技能実習生) (12) ジェンダー(家事労働) (13) 宗教 (14) ライフヒストリー(傾聴) (15) ライフヒストリー(発表)</p> <p><Class contents and progress schedule> (1) Orientation for Japanese students (rules of the multicultural class) (2) Orientation for Foreign students (rules of the multicultural class) (3) Identity (4) The individual and society (5) Language as lingua franca (6) Refugees and eligibikity for resident status (7) (8) (9) Gateway Collaborative project (10) Korean residents in Japan (11) Labor (technical trainees) (12) Gender (domestic labor) (13) Religion (14) Life history (attentive listening) (15) Life history (final presentation)</p>

異文化理解

成績評価方法	出席30%、毎週のコメント提出30%、授発中の発言などの参加度 10%、最終レポート30% Participation 30%. submission of weekly comments 30%. participation in class discussions etc. 10%. final essay 30%.
教科書および参考書	異文化コミュニケーション論 八島智子他 松柏社 2012
授業時間外学習	毎週メールによるコメントシート提出に30分-1時間程度、(7) (8) (9) の協働作業時にクラス外グループワーク5-6時間程度、(14) (15) ライフヒストリーのまとめに3時間程度 30 minutes to 1 hour to submit weekly comment sheet by email. 5-6 hours collaborative group work outside the class for (7) (8) (9). 3 hours interview with the partner for (14) (15)
その他	参加者を20人に限定、岩手山青少年交流の家での北東北の国立大学との合同合宿（11月3-4日）または外国にルーツを持つ子どもたちのキッズキャンプ（1月）に必ず参加してください、（自己負担約2500円）全ての学部・学年の参加を歓迎します、英語・中国語等を使用する場合がありますが語学のクラスではありません。ある程度の自己開示が求められますが決して強制ではありません。真剣に取り組めば就活・婚活の基礎となるコミュニケーションのセンスが養われると思います。 Students are required to participate in a joint getaway (November 3-4) together with students from national universities in North Tohoku or together with children of foreign background (January) at the Iwate Youth Friendship Center (participation fee is about 2500Yen). Students from all departments and grade levels are welcome. While English or Chinese might be used on occasion, this is not a language class. You are encouraged to self-disclose to some extent, but this is not mandatory. Diligent students can develop communication skills that will be useful in their future job-hunting and social life

日本社会・文化A(5)

科目名	伝統文化を通じた日本理解(中上級共修ゼミ) (日本社会・文化A)
担当教員	梅木 俊輔
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・木曜日・2講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A406
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	この授業は、日本文化の伝統的な側面を探り、現代日本社会と日本人の精神の起源に対する理解を深めることを目的としています。特に、日本の伝統芸術の中でも「～道」と呼ばれるものに注目します。留学生には、日本文化への理解を深め、さらにそれらを体験する機会を提供します。日本人学生には、日本文化を再発見する機会を提供します。
学習の到達目標	日本の伝統文化の基礎知識を身につける <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化を味わう ・自分自身の言葉で日本の伝統文化の魅力を語る事ができる
授業内容・方法と進度予定	この授業は分野ごとの講義を含む情報収集、日本の伝統文化体験、振り返りの3つから構成されます。下記のスケジュールは変更する可能性があります。1/9、1/16、1/23の授業はありません。 第1回 イントロダクション 第2回-3回 陶芸(※フィールドトリップ) 第4回-6回 和紙(※フィールドトリップ) 第7回-8回 仙台「初売り」文化と店舗訪問 第9回 華道 第10回 茶道 第11回 プレゼンテーションに向けた留意点 第12回-13回 グループワーク 第14回-15回 プレゼンテーション・まとめ
成績評価方法	出席(30%)、宿題(20%)、グループプレゼンテーション(20%)、期末レポート(30%)
教科書および参考書	
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は平日の授業時間以外に週末(土曜・日曜)に複数回フィールドトリップを行います。履修する上では、週末のフィールドトリップに参加できるかどうかを含め、予めよく検討すること。 ・期末レポートでは、授業のトピックに関連した実例・具体例を集め、それぞれの関係を明瞭にした上で、全体的にまとまりのある情報として示すことを求める。実例・具体例の収集・分析は、授業中の指示を参考に各自が適宜行うこと。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は外国人留学生が対象となる日本語プログラムの授業との合同で開講します。 ・授業は日本語をベースとして行われます。 第1回の授業(10/3)で受講者を確定します(定員25名)。2週目からの受講は認められませんので注意すること。 ・使用教材は授業で配付します。

異文化理解(2)

科目名	異文化コミュニケーション学基礎(上級共修ゼミ) (異文化理解)
担当教員	山本 喜久江
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・月曜日・5講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A403
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	実践的な学問である異文化コミュニケーション学を体系的に理論ベースで学びながら、異文化コミュニケーションのメカニズム、文化の定義、コミュニケーションの定義、など基本概念を学びます。そしていろいろな国からの留学生との話し合いや実践演習を通し、コミュニケーションについて理解を深めることが狙いです。かつ、文化の違いについて肌感覚で学ぶことです。こうした取り組みから、日常のコミュニケーションにもより意識的に取り組むようになることが狙いです。
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーション学の基本理論を把握する。 2. 留学生を含めた他の同僚との話し合いや体験学習を通し、背景の違う人とのコミュニケーションを体験し、異文化に慣れる。 3. 文化の違いを肌で体験する。 4. 日本文化を客観的に学ぶ。
授業内容・方法と進度予定	<p>授業の1/3は講義、残りは話し合いや演習に当てます。多くの演習、話し合いが組み込まれた、実践的な授業です。</p> <p>進度予定</p> <p>1; オリエンテーション,</p> <p>2; なぜ今、異文化コミュニケーションか</p> <p>3-4: コミュニケーションとは何か; コミュニケーションのメカニズム</p> <p>5-7; ことばによるコミュニケーション</p> <p>8-9; ことばのないメッセージ: 非言語コミュニケーション</p> <p>10-11; 見えない文化: 価値観と文化的特徴</p> <p>12; 異なる文化の捉えかた、接し方、異文化理解</p> <p>13-14; グループプレゼンテーション</p> <p>15: まとめ</p>
成績評価方法	宿題、レポート(50%)、発表(50%)
教科書および参考書	「異文化コミュニケーショントレーニング」八代京子他三修社 教科書異文化理解カ エリンメイヤー Eiji Press 2015 参考書
授業時間外学習	毎週宿題レポートあります。 発表の準備はチームワークを要するもので、学んだことを実践で試す場ともなるでしょう。
その他	授業は日本語で行うが共修の形態をとり、日本語でディスカッションできる力があれば、外国人学生も歓迎。受講者は30名を限度とする。留学生は、J5ぐらいのレベルで日本語が読み、話せるのが条件となる。 学年は問いません。

日本社会・文化A(6)

科目名	近代日本の思想と歴史(上級共修ゼミ) (日本社会・文化A)
担当教員	佐藤 勢紀子
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・木曜日。2講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A307
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	本講義では、日本人学生と留学生との意見交換や共同作業を通じて、近代日本の歴史・文化的事象を多様な視点で理解することを目指す。また、その歴史・文化的背景の違いによって生じているさまざまな価値観、世界観を理解し、多様な文化間コミュニケーションのあり方を身につけることも目的である。
学習の到達目標	日本の歴史や文化、言語を多様な視点から捉えられるようになる。また、異なる歴史的文化的背景を持つもの同士が、互いの違いを客観的に認知し、配慮しながら交流することが出来るようになる。
授業内容・方法と進度予定	19世紀以降の日本の文化史、思想史を通史的に取り扱う。第1回目は、オリエンテーション。 以下数回にわたって文化研究に関する方法論を講義し、そののちに受講者の発表を行う。方法論講義の回数は、学生の受講人数に依存するが、おおよそ第5回までである。 受講者は、割り当てられた年代に、自身の出身国や地域で起きた歴史的事件を紹介し、これを受講者全体で議論する。こちらも受講人数で変動するが、おおよそ第6回から第15回までである。 また発表内容をふまえた講義も行う。
成績評価方法	平常点40点、期末レポート60点。 平常点は出席、発表、クラス活動への参加などに基づいて算出する。
教科書および参考書	概説 日本思想史佐藤弘夫編 ミネルヴァ書房 2005 参考書日本文化論 キーワード 遠山淳ほか編 有斐閣 2009 参考書
授業時間外学習	予習は、自身の発表に関する事前調査およびレジュメの作成のみ。また講義中に、必要な事項に関して参考文献を指示するので、講義内容と合わせて復習すること。第1回オリエンテーションで詳述する。
その他	講義は、参加者の発表を行う関係上、日本人学生10名を上限に、留学生と合わせて20名以内の受講者を想定している。多い場合は、1回目のオリエンテーションから参加している者を優先し、以後はくじ引きで選定する場合がある。

異文化理解(3)

科目名	国際比較による学士過程カリキュラムの分析-国際共修ゼミ- (異文化理解)
担当教員	串本 剛
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・4講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C303
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	この授業では、文化の具体例として大学教育を取り上げる学士課程(いわゆる学 錦段階)のカリキュラムをテーマに国際比較を交えながら段階的に学ぶことによって、一定のスタイルで5000字程度の論文が作成できるようになることを目指す。履修生には、授業で共有される基礎知識を習得し、留学生を含めた学生同士の意見交換で視野を拓け、授業時間外に自らの関心に従って調査することが求められる。これから専門教育が本格的に始まる1年生だけでなく、卒業研究や大学院入試を控えた上級生にもぜひ履修してもらいたい
学習の到達目標	(1) 知識:自分が学んでいる学士課程カリキュラムの特徴を説明できる (2) 能力:根拠を伴う自らの主張を文章化することができる (3) 態度:他者の発表に対して、建設的で有益な質問ができる
授業内容・方法と進度予定	最初の2回(第1回~第2回):履修者の決定 同じ内容のオリエンテーションを行い、履修希望者には課題を提出させた上で、履修者の決定(最大12名)を行う。基本的にどちらかの授業回にできれば良いが、いずれにも出席していない場合、履修は認めない。 前半(第3回~第8回):基礎知識の習得 自分の出身国にある3大学について、紹介レポートを執筆する。紹介レポートは、①自分が学んでいるカリキュラム、②国内他大学のカリキュラム、③国外他大学のカリキュラムを対象とする予定である。これに並行して、レポートにおける文献の引用や図表の作成方法に関する講義・演習を行う。 後半(第9回~第15回):統合レポートの作成 これまでに学んだことを統合し、自分が学んでいる学士課程カリキュラムの特徴をレポートにまとめる。アウトラインを作り構成を確認した後でレポート作成に着手し、途中経過の発表に対する他の学生の質疑や担当教員の指摘を参考にしながら、最終的には5000字(A4用紙4枚)程度の統合レポートを完成させる。
成績評価方法	紹介レポート35点(3 X 10点 質疑5点)、統合レポート65点(アウトライン5点 初稿10点、修正稿15点、最終稿20点、修正点一覧10点、質疑5点)
教科書および参考書	東北大学レポート指南書 東北大学 学務審議会/高度教養教育・学生支援機構 2017 参考書 大学改革を成功に導くキーワード30 濱名篤ほか編著 学事出版 2013 参考書 もっと知りたい大学教員の仕事 羽田貴史編著 ナカニシヤ出版 2015 参考書
授業時間外学習	提出物が6つあり、それぞれ平均して4?~6時間程度は授業外学修が必要となる。
その他	この授業は「外国人留学生等特別課程」のクラスと合同で行う(使用言語は日本語だが、英文資料も使用する)。履修希望者が12名以上の場合は、留学生の割合および留学生の出身国の分布を考慮しつつ抽選を行う。

日本社会・文化A(7)

科目名	日本の多様性を考える（日本社会・文化A）
担当教員	副島 健作
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・1講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A304
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	日本語のおもしろい現象、とくにことばの多様性の問題について、実際に身の回りで使われている日本語の観察をとおして様々な日本語の姿に気づき、言語をより深く調査、分析する視点を身につける。また、そこに見られる日本の社会問題や日本人の意識について留学生・日本人の受講生間意見交換をしながら考察し、理解を深める。
学習の到達目標	1) 日常よく耳にする様々な日本語の現象について書かれた論文を批判的に読める。また、その内容にたいしていろいろな角度から意見を論じることができる。 2) 社会の中で生きる人間、またはその集団とのかかわりにおいて、日本語の現象や運用のあり方をとらえ、説明ができる。 3) 日本の社会問題や日本人の意識について説明できる。
授業内容・方法と進度予定	授業内容と方法 クラス活動 1) いろいろなトピックについての日本語の現象を観察し、内容を客観的に把握する。 2) 内容について、ディスカッションする。発表者が行うこと 1) 身の回りの面白そうな日本語の現象を見つけて、クラスで紹介する。 2) お気に入りの日本語の表現をクラスで紹介する。 進度予定(内容は時事によって変わる可能性があります) 第1回 女のことば・男のことば 第2回 若者ことば・キャンパスことば 第3回 ことばのデフォルメ 第4回 東の方言・西の方言／気づかれにくい方言 第5回 新しい方言・古い方言／方言と共通語 第6回 ことばの切りかえ／敬うことば・へりくだることば 第7回 上品なことば・下品なことば／忌避することば・慶弔のことば 第8回 発表・ディスカッション(1) 第9回 サービスのことば／喜怒哀楽のことば 第10回 話しことばと書きことば(音声絹)／話しことばと書きことば(文字絹) 第11回 論文・レポートのことば／メール・ネットのことば 第12回 マンガ・雑誌のことば／ゆれていることば 第13回 化石化したことば／非母語話者の日本語 第14回 やさしい日本語 第15回 発表・ディスカッション(2)
成績評価方法	発表をはじめ授業への積極的な取り組み姿勢を重視し評価するほか、取り上げられたトピックに関する期末試験も行い評価をする。発表(30%)、受講態度ほか(30%)、期末試験(40%)
教科書および参考書	ケーススタディ 日本語のバラエティ 上野智子ほか編著 おうふう 2005
授業時間外学習	普段から積極的に日本語の現象を観察し、日本語を客観的に理解する努力をする。発表の際は事前準備として、言語現象を選び、その背景となることやキーワードについて調べ、スライドにまとめるとともに、内容をしっかり理解しておく。
その他	留学生・日本人学生共修の少人数授業を実施して国際理解教育の推進、キャンパスの国際化を図る「国際共修ゼミ」科目の1つである。 討論による対話形式を毎時間取り入れるので受講者の積極的な参加、取り組みを期待する。授業進行過程での質問、意見、要望などはメールを通して受け付け、学生個人との対話も重視する。 講義は川内北キャンパス講義棟で行う。

日本社会・文化A(8)

科目名	コミュニケーションの諸相（日本社会・文化A）
担当教員	佐藤 勢紀子
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・月曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A307
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	日本人学生と外国人留学生がともに日本語の用法や日本でのコミュニケーションの仕方について意見交換を行なうことを通じて、日本文化を複眼的に捉えると同時に、世界の多様な文化についての知見を深める。
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を考察することによって、自己の出身文化圏の文化（日本人の場合は日本文化）を新しい視点から見直すことができるようになる。 ・異なる言語・文化圏を背景とする者同士が、それぞれのコミュニケーション・スタイルの違いを認識し、互いに配慮しつつ交流できるようになる。
授業内容・方法と進度予定	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と方法 テキストとして、教科書を中心に、日本語や日本文化について書かれたいくつかの論説文を選んで読む。3-6人程度のグループに分かれ、グループごとに交替で発表する。発表担当グループは、テキストの担当部分の要旨を紹介し、テキストの記述内容に関する実例およびコメント（感想、意見、疑問など）を提示する。それをもとに、グループで、あるいはクラス全体で、意見交換を行なう。1人の学生が学期中に発表する機会は2回になる見込みである。また、毎回授業についての短い感想、意見、質問等をコメント・シートに記入して提出する。次週にその内容をクラスで共有し、発展的な意見交換を行なう。 ・進度予定 1回目:ガイダンス(1) 授業全体の内容、テキスト、スケジュールについての説明 2回目:ガイダンス(2) 発表の仕方についての説明、アイスブレイキング 3回目:グループ分け、コミュニケーションについての意見交換、グループ・ワーク(発表の準備) 4回目:グループワーク(発表の準備) 5-9回目:第1ラウンドの発表および意見交換 メイン・テキストから10トピックを選び、1回に2つずつ取り上げる。 (例)「なに」「、ていうか」「、やっぱり」「、ね」と「よ」「、やる」と「もらう」「、この」「その」「あの」、は「」と「が」「、だ」と「じゃない」、,.. みたいな」 10回目:グループ・ワーク(発表の準備) 11-15回目:第2ラウンドの発表および意見交換 メイン・テキストおよびサブ・テキストから10トピックを選び、1回に2つずつ取り上げる。 (例)あいさつ、人称、役割語、ジェンダー、方言、スタイル(文体)、あいづち、配慮表現、非言語コミュニケーション ※学期中に1回、大学教員や大学院生を招いてのゲスト参加の授業を行なう予定である。
成績評価方法	平常点および期末レポートにより評価する。平常点は出席、発表、クラス活動への参加によって付ける。
教科書および参考書	<p>ていうか、やっぱり日本語だよ。一会話に潜む日本人の気持ち - 泉子, K. メイナード 大修館書店 2009 教科書話しことばと日本人 - 日本語の生態 - 水谷修 創拓社出版 1979 参考書</p> <p>日本語 新版(下) 金田一春彦 岩波書店 1988 参考書</p> <p>外国人とのコミュニケーション J. V. ネウストプニー 岩波書店 1982 参考書ものの言い方西東小林院・澤村美幸 岩波書店 2014 参考書</p> <p>身ぶりとしぐさの人類学 野村雅一 中央公論社 1996 参考書</p> <p>日本語とジェンダー 日本語ジェンダー学会編 ひつじ書房 2006 参考書役割語研究の地平 金水敏くろしお出版 2007 参考書</p> <p>日本語の配慮表現の多様性 野田尚史・他編 くろしお出版 2014 参考書敬語再入門 菊地康人丸 善 1996 参考書</p>
授業時間外学習	第1ラウンド、第2ラウンドそれぞれのグループのメンバーとともに2回の発表の準備を行なう。発表と意見交換で取り上げるテキストを事前に読んで、内容をきちんと把握しておく。
その他	外国人留学生対象日本語プログラムの中上級クラス「J C530」と合同で授業を行なう。使用言語は日本語。学生の発表・意見交換が中心となるゼミ形式の授業であるため、定員を日本人学生・留学生合わせて35名とする。受講希望者が多い場合は、初回に実施するアンケート調査への回答にもとづき、受講者を選定する。

日本社会・文化A(9)

科目名	日本の社会と文化（日本社会・文化A）
担当教員	島崎 薫
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・水曜日・4講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C301
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	この授業では、日本社会や文化の中に存在している価値観や振る舞い、行動、コミュニケーションの方法などに関するエッセイを英語で読み、それをもとに様々な文化的背景を持った学生が「やさしい日本語」を使ってディスカッションをします。3ディスカッションを通して、日本の社会や文化、そして異なる文化への理解を深めることを目的としています。 This course aims to enhance understanding of Japanese society and culture as well as other cultures through discussion. Students will read essays about Japanese values, behavior actions and way of communication written in English. Based on the reading, the students, who have various backgrounds, will have discussions in 'Yasashii-nihongo' (easy Japanese)
学習の到達目標	<p>【共通】</p> <p>日本社会や文化の中に存在している価値観や振る舞い、行動、コミュニケーションの方法に関する知見を深めるディスカッションの中で、異文化に対する理解を深める 異なる文化背景を持つ人がMさまチームで協働活動ができる</p> <p>【国内学生】</p> <p>「やさしい日本語」とは何かと理解することができる 「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションとることができる</p> <p>【留学生】</p> <p>あるテーマについての説明を開き、要点をつかむことができる例を挙げながらテーマについて説明することができる 「やさしい日本語」を使って、あるテーマについてディスカッションをすることができる</p> <p>【Both】</p> <ul style="list-style-type: none"> - To develop students' understanding of values, behavior action and way of communication in Japanese society and culture - To enhance their understanding of other cultures through discussion - To be able to collaborate with those who have different cultural and linguistic backgrounds <p>【Domestic students】</p> <ul style="list-style-type: none"> - To understand what 'Yasashii-nihongo' (easy Japanese) is - To be able to communicate with international students in 'Yasashii-nihongo' (easy Japanese) <p>【International students】</p> <ul style="list-style-type: none"> - To understand key points when listening to a presentation on a certain topic - To be able to explain themes by using examples - To be able to have a discussion on a certain topic using 'Yasashii-nihongo' (easy Japanese)
授業内容・方法と進度予定	<p>第1回: 自己紹介、シラバスの説明 第2回: 異文化とは？ / 「やさしい日本語」とは？ 第3回: ディスカッション①(ファシリテーター・教員) 第4回: ディスカッション②(ファシリテーター: 学生グループ) 第5回: ディスカッション③(ファシリテーター: 学生グループ) 第6回: ディスカッション④(ファシリテーター: 学生グループ) 第7回: ディスカッション⑤(ファシリテーター: 学生グループ) 第8回: ディスカッション⑥(ファシリテーター: 学生グループ) 第9回: 次回以降の発表の説明、グループごとに準備 第10回: 発表準備① 第11回: 発表準備② 第12回: 発表準備③ 第13回: 発表①② 第14回: 発表③④ 第15回: 発表⑤ / まとめ</p> <p>※第4回? 第8回は、テキスト「The Japanese Mind」からトピックを探し、第10回? 第14回はグループごとに自分たちでトピックを見つける</p>

日本社会・文化A(9)

<p>授業内容・方法と進度予定</p>	<p>Week 1 : Self-introduction.orientation Week2 : What is "different culture"?/ What is 'Yasashii-nihongo' (easy Japanese) ? Week 3 : Discussion ① (Facilitator : instructor) Week 4 : Discussion ② (Facilitator : Student group) Week 5 : Discussion ③ (Facilitator : Student group) Week 6 : Discussion ④ (Facilitator : Student group) Week 7 : Discussion ⑤ (Facilitator : Student group) Week 8 : Discussion ⑤ ! Facilitator : Student group) Week 9 : Explanation of presentation /Preparation for presentations Week10 : Preparation for presentations Week11 : Preparation for presentations Week12 : Preparation for presentations Week13 : Presentations :①② Week14 : Presentations ③④ Week15 : Presentations ⑤ / Sum-up *Students will choose a topic from the textbook "The Japanese Mind" from week 4 to week 8 and find a topic for the final presentation by themselves from Week13 to Week14.</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>参加態度40% (ディスカッションへの積極的な参加を期待します)ディスカッションのファシリテーション・プレゼンテーション 30%、最終レポート30% Active participation 40%, discussion and presentation 30%, final report 30%</p>
<p>教科書および参考書</p>	<p>The Japanese mind : understanding contemporary Japanese culture Roger J. Davies & Osamu Ikeno TUTTLE Publising 2002</p>
<p>授業時間外学習</p>	<p>グループでディスカッションやプレゼンテーションの準備をする必要があります。 Students are required to discuss and prepare for a presentation outside of the class.</p>
<p>その他</p>	<p>東北大学日本語特別課程レベル4の学生との国際共修授業です。 This course is an intercultural co-learning class with level 4 students of Tohoku University Japanese Program Email: k.shimasaki@m.tohoku.ac.jp TEL: (022)795-3749</p>

日本社会・文化B

科目名	日本の伝統文化を通じた日本理解 (日本社会・文化B) Understanding Japan through Japanese Culture
担当教員	坂本 友香
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・2講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C102
ポイント数	2
使用言語	英語
授業の目的と概要	This course aims to explore aspects of Japanese traditional culture to enhance the students' understanding of the origin of modern Japanese society and the perspectives of the Japanese people. This course is conducted in English and targets both international and Japanese students. For international students, it will provide opportunities to develop their understanding of Japanese culture and to experience it. For Japanese students, it will provide opportunities to re-discover Japanese culture
学習の到達目標	1. Students will gain fundamental knowledge of Japanese traditional culture. 2. Students will demonstrate an understanding of Japanese traditional culture 3. Students will effectively engage in interpersonal communication, and exchange opinions and information
授業内容・方法と進度予定	This course consists of three parts : (1) lectures, (2) experience in and demonstrations of traditional Japanese culture, and (3) reflection. Professionals from each area are invited to offer lectures on traditional culture. This course also provides students with opportunities to experience Japanese culture inside and outside the classroom 1) Introduction 2) Shodo (書道) / Calligraphy 3) Shinto (神道) / Japan's indigenous religion 4) Kimono (着物) / Traditional clothing 5) Nihonbuyo (日本舞踊) / Japanese Classic Dancing 6) Noh (能楽) Japanese theatrical arts 7) Noh (能楽) / Japanese theatrical arts 8) Chado (茶道) / Tea ceremony 9) Chado (茶道) / Tea ceremony 10) Wadaiko (和太鼓) / Traditional Japanese drum 11) Preparation for group presentation 12) Presentation 13) Presentation 14) Presentation 15) Class wrap-up 【IMPORTANT】 MANDATORY attendance at the first class meeting (October 2nd) This course CANNOT accept students who join from the second week Field trips will be scheduled on weekends ※ Topics are subject to change depending on conditions. The latest syllabus and schedule will be updated in late August Please check the online syllabus BEFORE you enroll in this course
成績評価方法	Students will be assessed and graded based on the following Attendance and active participation 30% Group presentation 20% Home work 20% Final report 30% Two (2) late arrivals (more than 20 minutes late) or early leaves equal one (1) absence
教科書および参考書	
授業時間外学習	Group work
その他	References (handouts) are provided, when needed. You must attend the first class session. The maximum number of participants for this course is 25. If there are more applicants than places, participants will be selected by lottery. Office hours are from 11:00 to 13:00 on Wednesdays. Please make an appointment in advance via email or other means. The contact information for the lecturer will be given in class.

日本社会・文化B(2)

科目名	日本の伝統文化を通じた日本理解（日本社会・文化B）
担当教員	坂本 友香
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・4講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C201
ポイント数	2
使用言語	英語
授業の目的と概要	This course aims to explore aspects of Japanese traditional culture to enhance the students' understanding of the origin of modern Japanese society and the perspectives of the Japanese people. This course is conducted in English and targets both international and Japanese students. For international students, it will provide opportunities to develop their understanding of Japanese culture and to experience it. For Japanese students, it will provide opportunities to re-discover Japanese culture
学習の到達目標	1. Students will gain fundamental knowledge of Japanese traditional culture. 2. Students will demonstrate an understanding of Japanese traditional culture 3. Students will effectively engage in interpersonal communication, and exchange opinions and information
授業内容・方法と進度予定	This course consists of three parts : (1) lectures. (2) experience in and demonstrations of traditional Japanese culture, and (3) reflection. Professionals from each area are invited to offer lectures on traditional culture. This course also provides students with opportunities to experience Japanese culture inside and outside the class room 1) Introduction 2) Shodo (書道)/ Calligraphy 3) Shinto (神道)/ Japan's indigenous religion 4) Kimono (着物)/ Traditional clothing 5) Nihonbuyo (日本舞踊)/ Japanese Classic Dancing 6) Noh (能楽)/ Japanese theatrical arts 7) Noh (能楽)/ Japanese theatrical arts 8) Chado (茶道)/ Tea ceremony 9) Chado (茶道)/ Tea ceremony 10) Wadaiko (和太鼓)/ Traditional Japanese drum 11) Preparation for group presentation 12) Presentation 13) Presentation 14) Presentation 15) Class wrap-up 【IMPORTANT】 MANDATORY attendance at the first class meeting (October 2nd) This course CANNOT accept students who join from the second week Field trips will be scheduled on weekends ※ Topics are subject to change depending on conditions. The latest syllabus and schedule will be updated in late August. Please check the online syllabus BEFORE you enroll in this course
成績評価方法	Students will be assessed and graded based on the following Attendance and active participation 30% Group presentation 20% Home work 20% Final report 30% Two (2) late arrivals (more than 20 minutes late) or early leaves equal one (1) absence
教科書および参考書	
授業時間外学習	Group work
その他	References (handouts) are provided, when needed. You must attend the first class session. The maximum number of participants for this course is 25. If there are more applicants than places, participants will be selected by lottery. Office hours are from 11:00 to 13:00 on Wednesdays. Please make an appointment in advance via email or other means. The contact information for the lecturer will be given in class.

グローバル・コミュニケーション

科目名	対人コミュニケーションスキル (グローバルコミュニケーション)
担当教員	山本 喜久江
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・1講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A303
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	コミュニケーションの本質とそのメカニズムを探るコミュニケーションの盲点を探る 基礎的スキルと基礎的方法を学ぶ You will learn basic communication mechanism, characteristics, and pitfalls In addition, you will learn abilities, skills, and knowledge required to carry out communication more effectively in your daily life
学習の到達目標	コミュニケーションに対する不安の軽減 より積極的・肯定的な姿勢を持てるようになる 自分についての理解を深める Reduce anxieties and concerns for communication. Develop more proactive and positive behaviors. Increase understanding about yourself.
授業内容・方法と進度予定	学期を通して、まずは、読んで話し合いを通して内容を理解します。それが終わったら、その知識を元に、チームでプレゼンテーションを準備します。準備を通しながらいろんなチームメンバーとの話し合いを通し学んだことを適用することを試みます。プレゼンを通し、仮想の聴衆を小学生と見立てて教えることでさらなる理解の深化を狙います。小学生に教えることで、プレゼンテーションの必須条件である、聴衆分析についても学びます。 毎回最初に宿題を読み合い、互いに意見をグループで分かち合う。以下の内容に沿って進めます - 人間関係の始発点:セルフイメージの把握 - コミュニケーションについてのどうとらえているか、の把握 - 「他の人からどう思われる？」 - コミュニケーションスタイルの文化的、地域、個人の違いー コミュニケーションの定義とメカニズムの紹介 - 二つの次元:言語と非言語 言語スキルの特徴と種類 非言語スキルの特徴と種類 1. オリエンテーション&第1章:人間関係力 2. 第2章:自己受容 3. 第3章:感情管理 4. 第4章:創造性と多面的思考 5. 第5章:自律と相互作用 6. 第6章:オープンな心と柔軟性;クイズ 7. 第7章:コミュニケーション力 8. -13. グループでの担当章のプレゼンテ 14. 演習&クイズ 15. 振り返り 実戦練習:毎回
成績評価方法	出席が不可欠:ミニットペーパー(40%)、宿題(20%)、プレゼンテーション(40%)
教科書および参考書	多文化社会の人間関係力 八代京子、山本喜久江 三修社 2006
授業時間外学習	毎回、次の章を読み1ページのレポート作成、提出する。グループプレゼンの準備
その他	毎回、宿題あり。 演習は、一人で行うものもあれば、パートナー、チームと行うこともあり。知識より実践を重視する。学年は問いません。日本語ができれば、留学生も大歓迎。

グローバル・コミュニケーション(2)

科目名	対人コミュニケーションスキル (グローバルコミュニケーション)
担当教員	山本 喜久江
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・火曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・A303
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	<p>コミュニケーションの本質とそのメカニズムを探る コミュニケーションの盲点を探る 基礎的スキルと基礎的方法を学ぶ You will learn basic communication mechanism: characteristics, and pitfalls In addition, you will learn abilities, skills, and knowledge required to carry out communication more effectively in your daily life</p>
学習の到達目標	<p>コミュニケーションに対する不安の軽減 より積極的・肯定的な姿勢を持てるようになる 自分についての理解を深める Reduce anxieties and concerns for communication Develop more proactive and positive behaviors Increase understanding about yourself.</p>
授業内容・方法と進度予定	<p>学期を通して、まずは、読んで話し合いを通して内容を理解します。それが終わったら、その知識を元に、チームでプレゼンテーションを準備します。準備を通しながらいろんなチームメンバーとの話し合いを通し学んだことを適用することを試みます。プレゼンを通し、仮想の聴衆を小学生と見立てて教えることでさらなる理解の深化を狙います。小学生に教えることで、プレゼンテーションの必須条件である、聴衆分析についても学びます。</p> <p>毎回 最初に宿題を読み合い、互いに意見をグループで分かち合う。以下の内容に沿って進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> - 人間関係の始発点:セルフイメージの把握 - コミュニケーションについてのどうとらえているか、の把握 - 「他の人からどう思われる？」 - コミュニケーションスタイルの文化的、地域、個人の違いー コミュニケーションの定義とメカニズムの紹介 - 二つの次元:言語と非言語 <p>言語スキルの特徴と種類 非言語スキルの特徴と種類</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&第1章:人間関係力 2. 第2章:自己受容 3. 第3章:感情管理 4. 第4章:創造性と多面的思考 5. 第5章:自律と相互作用 6. 第6章:オープンな心と柔軟性;クイズ 7 第7章:コミュニケーション力 8. - 13. グループでの担当章のプレゼンテ 14. 演習&クイズ 15. 振り返り <p>実戦練習:毎回</p>
成績評価方法	出席が不可欠:ミニットペーパー (40%)、宿題 (20%)、プレゼンテーション (40%)
教科書および参考書	多文化社会の人間関係力 八代京子、山本喜久江 三修社 2006
授業時間外学習	毎回、次の章を読み1ページのレポート作成、提出する。(グループプレゼンの準備)
その他	<p>受講人数は30人とする。毎回、宿題あり。 演習は、一人でやるものもあれば、パートナー、チームで行うこともあり。知識より実践を重視する。学年は問いません。日本語ができれば、留学生も大歓迎。</p>

グローバル・コミュニケーション(3)

科目名	異文化理解実践—日本の文化や社会について内と外から考える—国際共修ゼミ (グローバル・コミュニケーション)
担当教員	渡部 留美
対象学年(日本語レベル)	全
学期・曜日・講時	後期・月曜日・3講時
キャンパス・教室	川内北キャンパス・C101
ポイント数	2
使用言語	日本語
授業の目的と概要	この授業は、多様な文化的背景を持つ学生がディスカッションや協働作業を通して、日本の社会や文化に対する理解を深めることを目的としている。人間がともに学び生きることの意味を考え直し、多文化共生のあり方を模索するのがこの授業のねらいである。この授業では、留学生について概要を学び、留学生が勉学その他の日常生活で直面する課題を取り上げ、ディスカッションを行う。グループ分けを行い、それぞれグループでテーマを決め、資料を作成し発表(15分程度)してもらう。グループの中には必ず留学生を入れ、専門用語や背景知識の伝達をその場で行うことで、留学生に分かりやすく説明するテクニックを学ぶことにする。
学習の到達目標	(1) 留学生の文化、日本の文化について知ったり、伝えたりできるようになる。 (2) 文化やコミュニケーションについて学ぶ。 (3) 協働作業をとおして、多文化間コミュニケーションスキルを身につける。
授業内容・方法と進度予定	第1回 ガイダンス 第2回 講義とディスカッション: 言語と文化 第3回 講義とディスカッション: 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第4回 講義とディスカッション: 日本の大学における外国人留学生、国際化 第5回 グループ活動: 発表準備 第6回 発表 第7回 発表 第8回 講義とディスカッション: 日本の社会 第9回 講義とディスカッション: 日本の社会 第10回 講義とディスカッション: 日本の社会 第11回 グループ活動: 発表準備 第12回 グループ活動: 発表準備 第13回 発表 第14回 発表 第15回 グループ活動振り返り
成績評価方法	授業への参加度(30%) 発表(30%) 最終レポート(40%)
教科書および参考書	
授業時間外学習	授業時間外で、発表の準備をグループごとに行うことを奨励する。
その他	・日ごろの留学生とのやり取りのなかで共感あるいは違和感を持ち、それを積極的に表現できるパワーのある学生の受講を期待します。 ・テキストは適宜配布します。 ・定員30名(希望者多数の場合は、拍選を行います)